

生誕110年 佐藤太清展 水の心象



グレーを極めた画家

1.《暎》1969年

2023年

4月29日(土)－ 6月 4日(日) 板橋区立美術館(東京)

7月 1日(土)－ 8月20日(日) 八幡浜市美術館(愛媛)

9月10日(日)－10月22日(日) 福知山市佐藤太清記念美術館(京都)

佐藤太清について

自然から感受したイメージを独自に解釈し、詩情豊かな世界観を創出した日本画家・佐藤太清（1913～2004年）は、2023年に生誕110年、2024年に没後20年を迎えます。

太清の故郷である京都府福知山市に流れる由良川は、豊かな恵みをもたらす一方、深刻な水害を発生させる暴れ川としても知られています。美しい自然が時に様相を変える瞬間を太清も目撃したことでしょう。絵の道を志し18歳で上京した太清は、児玉希望の内弟子として日本画の修行を開始しますが、後に独自の画風を形成した礎に、このような自然との関わりが影響したと考えられています。

太清の作品制作は、花鳥風月を静止した状態で絵画化する従来の日本画概念から脱却したものでありました。1960年代には、波や夕立、台風など自然の持つ強大なエネルギーを動的に表現しつつ、生命の所在を問いかける花や鳥を画面に登場させるなど、その作品群には動と静、生と死など対極のテーマが存在します。53歳で描いた《風騷》（日本芸術院蔵）への評価により、1967年に日本芸術院賞を受賞しました。

1980年より10年にわたって制作した「旅シリーズ」は気韻奏でる風景の中に生命感あふれる動植物を描いた作品群であり、それらは、従来区分されていた花鳥画と風景画を融合させた新分野、花鳥風景画の確立と評価され、1992年に文化勲章を受章します。最晩年の81歳で描いた大作《雪つばき》（日本芸術院蔵）には、優しい情感をともなった清浄な雪とその雪の重みに耐えるように咲く大輪の椿が描かれ、その心象は今もなお多くの人々に愛されています。

そこに花の、鳥の隠れようもない美が現われる。

私にはそう見える。

鑑賞する者が安心して幾度も作品を見ることができる。

本展監修 青木保（文化人類学者・前国立新美術館館長・元文化庁長官）

自然と対峙し、それをずっと見つめることだけを続けてきた太清の目には、ゆるやかにその裾野を広げる可視領域の外側の光が捉えられていたのではないだろうか。彼はその感触を絵として描き出すことに一生を捧げた。太清の絵を眺めていると、私は画家のそんな孤独な旅を感じることが出来る。

福岡伸一（生物学者・青山学院大学教授）

佐藤太清氏の作品を見た時、一瞬息が止まりました。

こんなに心が清い画家が世界に存在していたのかと思いました。

蓑豊（兵庫県立美術館館長）

展覧会について

太清は生涯にわたり、“水”に関連する多くの作品を描きました。日本画の修行を始めたばかりの若き太清に、師・児玉希望は「水を描いてみよ」と指導し、その課題に取り組んだ経験が記録に残っています。初期においては具象表現を目指す太清ですが、中期には次第に波紋や揺らぎ、映る対象物など光や風的作用を描くことで水の存在を表し、後期には雨や雪、空気の湿り気から感じ取った“水”の感覚を自己の感性を添えながら表現するに至ります。

四方を海に囲まれ湿潤な気候にある日本列島は7割近くが森であるといわれ、その南北に長い地形は川池・湖沼・海原といった多様な環境、そして生命を生み出しました。太清は70年の画業において、このような自然を丹念に取材し、多くの写生を残しています。

本展は、佐藤太清が描いた“水”に視点をあてながら、生涯における作品変遷、自然を描いた足跡、感受した自然を解釈したことにより生まれた心象世界をたどります。

展示構成

第1章 模索の時代

柳の枝に冷たくも重みを持たせた雪の世界。潮の匂いを想起させる海辺の情景。最初期における水の表情は、未ださりげない。雪や海の存在は、群れて騒ぐ鳥や海辺で暮らす人々の生活といった主題を物語るための背景ともいえます。その後《竹窗細雨》(1951年)においては、降る雨のしずく、雨がもたらす部屋の湿度、室内の水槽など、水を描き分ける手法を追求。絵画の世界に漂う空気を感知させる表現が顕在化されるようになりました。また30歳にして、新文展へ初入選した《かすみ網》(1943年)には、死にゆく鳥と平穏な空という対極の世界が描かれます。太清の生涯におけるテーマといえる水の様相と対極のイメージは、既にこの時代から内在されていたといえます。



2. 《かすみ網》1943年
板橋区立美術館 蔵

第2章 抽象への転換

対象物を造形的に解釈し絵画制作がおこなわれたこの時期、水辺に映り込まれた光景は、多くの画題に取り上げられています。実在の植物と水面の反映がつくりだすシンメトリー(対称性)への関心は昭和27年(1952)《睡蓮》より見られ、《冬池》(1955年)ではその形象を主題に、《冬日》(1962年)には抽象化へと更なるその解釈は深められました。一方、《雨の日》(1952年)、《樹》(1956年)、《水芭蕉》(1963年)では、水に映る光景と共にその場に漂う空気の状態を濃厚に表現しています。映る光景を変奏的に解釈しつつ、そこに漂う空気の表現はどのように追求すべきかと挑んだ太清は、対象物の写実的な描写を極限までそぎ落としました。

光景と空気に対する表現の比重を大胆に変化させつつ、実験的な画面構築を行ったのがこの時代です。

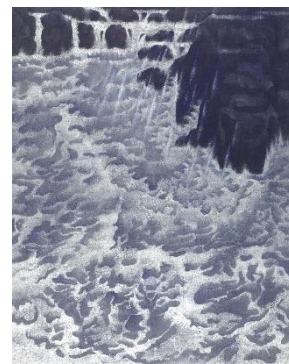


3. 《雨の日》1952年
福知山市佐藤太清記念美術館 蔵

第3章 自然への呼応

造形的な作品制作を終了し、創作の転換期に描かれた作品は、自然の破壊的なエネルギーでした。《潮騒》(1965年)、《風騒》(1966年)、《洪》(1968年)は、光と闇を効果的に演出し、波濤・夕立・台風といった自然界における水の様相を表象しています。その後、《暎》(1969年)、《昏》(1974年)では、水面の光景を自然空間に漂う気韻として解釈し、多くの色彩を薄く何層にも重ね、豊潤かつ心象的な作品を制作。《東大寺暮雪》(1975年)、《蓮》(1977年)、《朝霧》(1978年)では、雪・朝露・霧を表現しつつ、その場の寒暖・湿潤をも感知させ、詩情豊かな独自の世界観を創出しました。

さて、《風騒》(1966年)、《緑雨》(1970年)、《雨の天壇》(1979年)の「降る雨」に注目してほしい。前章までは克明に描かれていた雨粒が、この時期には描かれていません。降り具合や寒暖など、太清は体感する現象を色彩に変換して見る側に感知させ、雨粒を描かずして雨の情景を描いています。対象物から不必要と考える要素を極限まで除いた前章での実験的な成果がここに表出しているといえます。



4. 《潮騒》1965年
福知山市佐藤太清記念美術館 蔵

※本展では、昨年に太清の画室より発見された『潮騒』の構想図7点が初公開されます。岩壁に大波が激しく打ち寄せる情景を、太清はどのように絵画化したのか。プラチナを駆使した7種の荒れ狂う波の表現に注目です。

第4章 水の心象

昭和55年(1980)より開始された〈旅シリーズ〉以降、《旅途》(1988年)、《雨あがり》(1991年)をはじめとし、太清が研究を重ねた水に対する表現手法の結実をここに見ることができます。中でも雪に対する表現は、前章の《東大寺暮雪》(1975年)の制作から高く評価され「雪の名手」と称されるに至りました。《旅の朝》(1980年)には春の雪のやわらかさ、清らかな空気感、優しさあふれる詩情を融合させ、特徴ある十字構図で制作しています。日展への最後の出品作となった《雪つばき》(1994年)は、真綿のような雪をまとった椿に精神性を与え、雪景色でありながら温かい情動を想起させます。雪・水・植物・動物、それらを写真であるかのようにそのまま描くのではなく、自己の目指す絵画にとって不要なものを見定め、それらの要素を抜き、描きたいと決めた心象を映し込む。写実的な花鳥と心象的な風景、分野の異なる絵画を独自の表象手法で融合させ花鳥風景画はここに完結しました。70年の画業において、太清は常に自然と向き合った写生を行い、旅先での詩情をあたためました。描かれた水の心象には、太清の自然観へのまなざしが投影されているといえます。



5. 《旅途》1988年
福知山市佐藤太清記念美術館 蔵

※「夏の思い出」などで知られる20世紀を代表する作曲家・中田喜直は、佐藤太清と交流し、この《旅途》についても音楽的なコメントを残しています。本年、生誕100年を迎える中田喜直とのコラボとして、板橋区立美術館、八幡浜市美術館ではミュージアムコンサートが開催されます。



6. 《佐田岬行》1993年
福知山市佐藤太清記念美術館 蔵

※《佐田岬行》(1993年)は、太清の言葉(制作意図)に書かれた「八幡浜から三崎一三里」にあるように、本作の取材地にほど近い、愛媛県八幡浜市美術館にて、本年7~8月に開催されます。制作されてからちょうど30年後に、八幡浜で展示されるこのタイミングにご注目ください。本作の構想図2点も初公開(八幡浜市美術館のみ)されます。

※掲載作品は全て©Masako Sato 2023

■ アートワーク

太清の絵具棚より

かつて佐藤太清が制作を続けた画室には、未整理の絵具瓶が置かれたままとなっていました。それらをリスト化したところ、1000 種を超えることが判明しました。その膨大な色彩は、日本画絵具として販売されている階調を遙かに超えており、太清自身が調合した多数の色彩の存在が明らかとなりました。佐藤太清とは、どのような色彩傾向をもつ作家なのか。大阪芸術大学美術学科日本画コース協力のもと、遺された絵具への調査が始まりました。

これらの絵具を一つ一つ小さなサンプルケースに移し専用の棚に並べ、会場に展示をします。太清の使用した色彩の傾向を色相図として検証。生涯にわたり、どれくらいの種類の色彩を使用するのかを視覚的に感知するアートワークです。



■ 展覧会概要

●板橋区立美術館

会 期：2023年4月29日(土)～ 6月4日(日) ※月曜日休館

開館時間：午前9時30分～午後5時（入館は午後4時30分まで）

観 覧 料：一般650円、高校・大学生450円、小中学生200円

※65歳以上・障がい者割引あり（要証明書）※土曜日は小中高校生は無料

住 所：〒175-0092 東京都板橋区赤塚5-34-27

H P：<https://www.city.itabashi.tokyo.jp/artmuseum/>

主 催：生誕110年佐藤太清展実行委員会、
公益財団法人板橋区文化・国際交流財団、板橋区

●八幡浜市美術館

会 期：2023年7月1日(土)～ 8月20日(日) ※月曜日休館

開館時間：午前10時～午後6時（入館は午後5時30分まで）

観 覧 料：一般500円、パスポートチケット1,000円

※高校生以下、障がい者手帳をお持ちの方と介助者1名無料

住 所：〒796-0066 愛媛県八幡浜市 62番地 1

H P：<https://www.city.yawatahama.ehime.jp/doc/2022103100065/>

主 催：生誕110年佐藤太清展実行委員会、八幡浜市、八幡浜市教育委員会

●福知山市佐藤太清記念美術館

会 期：2023年9月10日(日)～10月22日(日) ※火曜日休館

開館時間：午前9時～午後5時（入館は午後4時30分まで）

観覧料：大人220円（110円）、子ども110円（90円）

※子ども料金は小学生・中学生が対象 ※（）内は30人以上の団体料金、身障者割引料金

住 所：〒620-0035 京都府福知山市岡ノ32-64

H P：<https://www.city.fukuchiyama.lg.jp/soshiki/7/2024.html>

主 催：生誕110年佐藤太清展実行委員会、福知山市、福知山市佐藤太清記念美術館

【公式佐藤太清WEBサイト・SNS】

WEBサイト



YouTube



Instagram



Facebook



WEBサイト：<http://www.sato-taisei.com/>

YouTube：<https://www.youtube.com/@sato.taisei>

Instagram：https://www.instagram.com/official_sato_taisei/

Facebook：<https://m.facebook.com/satotaisei>

広報の問い合わせ先

「生誕110年 佐藤太清展」広報事務局（株式会社アート・ベンチャー・オフィス ショウ内）

担当：佐藤、市川

〒151-0063 渋谷区富ヶ谷1-18-8-301 TEL 03-3485-7866 FAX 03-3485-7851

e-mail:avo-shou.pr@ktd.biglobe.ne.jp

FAX:03-3485-7851 e-mail:avo-shou.pr@ktd.biglobe.ne.jp

以下の内容をお読みいただき、必要事項をご記入のうえお送りください。

1. 作品画像データのご提供

本展覧会を貴社媒体にて紹介いただける場合に限り、プレスリリースに掲載の6作品の画像データを貸出いたします。ご希望の番号に○をつけてお申し込みください。

2. 掲載についての注意事項

- 必ず作家名、作品名、制作年、所蔵先を表記してください。
- 作品は必ず全図で使用してください。改変、部分使用、文字のせをする場合は事前にご相談ください。
- 確認のため、必ずゲラの段階で広報事務局に原稿をFAXかメールにてご送付願います。
- 作品使用は、本展覧会の紹介用のみとさせていただきます。*展覧会終了後の使用は出来ませんのでご了承ください。
- ご掲載いただいた場合、掲載紙/誌を1部、広報事務局にご送付くださいますようお願い申し上げます。
*尚、掲載ページをpdfファイルにてお送りいただいても構いません。（その際は広報事務局までご一報ください）

3. 読者・視聴者へのお問い合わせ先の掲載

TEL: 板橋区文化・国際交流財団 03-3579-3130
八幡浜市美術館 0894-21-3335
福知山市佐藤太清記念美術館 0773-23-2316

4. 読者・視聴者へのプレゼント用招待券（第1会場【板橋】）のご提供について

本展広報用として、作品図版使用を条件に1媒体につき招待券5組10名様分をご用意いたします。ご希望の際は下記申込書にご記入の上お申し込みください。

お申込みフォーム

貴媒体名			
貴社名/部署			
ご担当者名		e-mail :	
ご住所	〒		
ご連絡先	TEL :	FAX :	
掲載予定号/放送予定日		掲載号発売日	月 日
画像データの必要期限	月 日まで	プレゼント招待券	希望する ・ 希望しない

■希望の作品No.に○をつけて下さい。

No.	作家名<作品名>制作年 所蔵先
1	佐藤太清《暎》1969年 ©Masako Sato 2023
2	佐藤太清《かすみ網》1943年 板橋区立美術館 蔵 ©Masako Sato 2023
3	佐藤太清《雨の日》1952年 福知山市佐藤太清記念美術館 蔵 ©Masako Sato 2023
4	佐藤太清《潮騒》1965年 福知山市佐藤太清記念美術館 蔵 ©Masako Sato 2023
5	佐藤太清《旅途》1988年 福知山市佐藤太清記念美術館 蔵 ©Masako Sato 2023
6	佐藤太清《佐田岬行》1993年 福知山市佐藤太清記念美術館 蔵 ©Masako Sato 2023